

人と人との出会いと
密度の濃い末長い交流

鳥取ハーナウ協会

「土人形」から始まった交流

ドイツ連邦共和国 ハーナウ市……。みなさんはどんな国をイメージされますか？

人口は本市の約半分程度、面積は10分の1、ドイツの経済の中心都市フランクフルトに隣接し、市の産業は宝石、貴金属の加工が中心で、経済を支える主要産業となっています。また、グリム童話で知られるグリム兄弟の出生地でもあります。本市からは閑空経由で約15時間といった所に位置する都市です。

ハーナウ市と本市との交流

は、一体の土人形から始まりました。市制施行100周年を記念して平成元年に開催された「鳥取・世界おもちゃ博覧会」に、世界最古（紀元前5〜4世紀）の操り人形が、ハーナウ市の「ヘッセン人形博物館」から特別展示されたのです。また、おもちゃ博覧会に出品されていた和紙人形製作グループ「駒鳥会」の作品が、訪鳥中のヘッセン人形博物館のローゼマン館長の目にとまり、同館へ寄贈されることになりました。現在も館内の一角に、和紙人形のジオラマが常設展示されています。

さらに、おもちゃ博の成功を機に平成7年に建設された「わらべ館」の開館式には、ローゼマン館長ご夫妻が記念式典に臨み、わらべ館とヘッセン人形博物館との姉妹館締結の調印も行われました。

人と人と顔を合わせて

おもちゃ博に端を発した交流はお互いの国を訪問し合う中で、平成13年、姉妹都市提携の調印を行うことになりました。

こうして始まったハーナウ市との交流は、行政だけではなく、文化、観光、教育など

のさまざまな分野や団体での市民による交流が盛んに。そんな中、平成17年に民間団体として交流を推進する「鳥取ハーナウ協会」が設立されました。その設立当初から会長をなさっているのがこのたびご紹介する山本二郎さんです。設立当初の会員数は150名、現在は約200名の会員がいらつしやいます。

一方、ハーナウ市でも「友好協会鳥取・ハーナウ」が設立され、お互いの交流の基盤が整いました。

「交流は、電話やメールだけではなく、人と人とが直接、



会長・山本 二郎 さん
Jiro Yamamoto



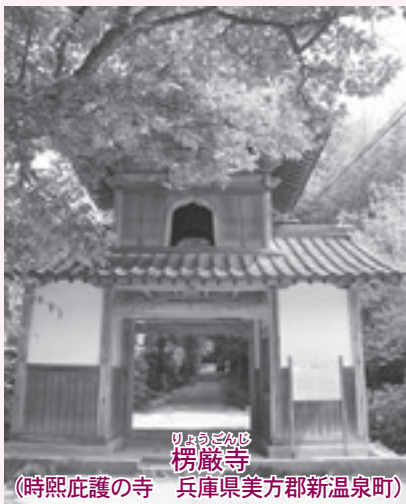
「友好協会鳥取ハーナウ」ワルター会長（左）と「鳥取ハーナウ協会」山本会長（右）が友好交流提携書に調印（平成18年10月18日 ホープスターとっとり）

室町時代の正月

現代の日本の正月は、仕事上ではあまり1年の区切りという感覚はないかもしれませんが、前近代までは暦どおり年始であり、正月の元日から、朝廷でも幕府でも、公私にわたるさまざまな行事が続きます。

室町時代の正月をみると、武士はもとより公家や僧侶に至るまで、將軍の御所に年頭のあいさつに向かい、將軍自身も幕府重臣や有力寺院を訪れる御成の儀式などを行います。例えば、足利義持・義教期の將軍の護持僧（將軍の身体護持の祈祷などをする僧）である、三寶院満濟による「満濟准后日記」を見てみると、正月には毎日のように幕府重臣の宅や有力寺院に御成をしています。

その中で、山陰地方の有力武士である山名時熙の邸宅では、概ね毎年正月22日に將軍を迎えており、重臣の1人として名を連ねています。明德の乱で征伐された山名氏ですが、その後も幕府の中で「御相伴衆」として位置づけられており、この他にも將軍が満濟の房舎へ渡御する際に時熙が付き従うなど、依然として幕府内での身分の高さがうかがえます。



（時熙庇護の寺 兵庫県美方郡新温泉町）

さて、鳥取市歴史博物館では、年末から年始にかけて、さまざまなイベントを用意しています。職員一同、みなさんの御成（来館）を、心よりお待ちしております。

鳥取市歴史博物館学芸員 石井伸宏

鳥取市歴史博物館お正月イベント

あけましておめで“十”sweet 10 やまびこ館
～2010年 やまびこ館は開館10周年を迎えます～
※詳しくは、24ページをご覧ください。

問い合わせ先

やまびこ館 上町88 (0857) 23-2140



平成16年6月、市民団体として初めて鳥取市民訪問団がハーナウ市を訪問。ハーナウ市庁前での記念写真。中央はグリム兄弟の像。

民訪鳥団の団長は、山本会長ほか協会のみなさんの心からのおもてなしに感謝。「お客と

顔を見合わせて話すことが大切」と山本さんは力強く話します。また、「言葉は通じなくても誠意は伝わるので、意思の疎通はできます」と言いながらも、一昨年の10月のハーナウ市民訪鳥団を歓迎する夕食会では、勉強中のドイツ語であいさつも。

また、ハーナウ市

た「日本のまつり・2009

平成18年には会員がハーナウ市を訪問しました。市民挙げての熱烈な歓迎ぶり、随所まで行き渡った気配りに感動したのこと。「距離、言葉の問題なんて小さなことです。不自由さを感じたことはほとんどないですね」と山本さん。昨年10月、本市で開催され

密度の濃い末長い交流を

して鳥取に行き、友人としてドイツへ帰りました」と本市を訪れる前に持っていた期待を、はるかに超える訪問だったと絶賛されました。

鳥取」には、ハーナウ市の「シュタインハイムカーニバル協会」のみなさんが、若桜街道やとりぎん文化会館などで、伝統的なマーチダンスやライندگانスを披露してくださったのは記憶に新しいところです。来年は、本市とハーナウ市との姉妹都市提携10周年、そして、協会設立5周年を迎えます。

新たな交流へつなげていける記念事業を考案中とのことですが、協会の運営と将来の交流の姿についてお尋ねしました。「マラソン大会で始めから全力疾走すると、ゴールにたどり着くことができないランナーを見かけます。先は長いので、ゆつくりと少しずつゴールインするような感覚が大切。あせらず、息の長い交流を続けていきたい。」

さらに「さまざまな団体が、縦、横、斜めの交流を続けながら今の協会の姿があります。それぞれが『誠意』を共通概念にかかげ、あせることなく密度の濃い末長い交流をめざしたい」ときつぱり。

20年前、一体の土人形から始まった交流の絆は、着実に深く、強くなり、続いていくことでしよう。